

# 生物多様性の「今」を調べ、 ネイチャーポジティブ推進に貢献します

我々は豊かな自然から生態系サービスと呼ばれる多くの恵みを楽しんでいます。生態系サービスが劣化する傾向にある中、持続可能な社会を形成するためには、ブルーカーボン生態系の活用といった気候変動対策とともにBNGなどのネイチャーポジティブの取り組みが求められます。これらは同時に推進することが可能です。例えば、藻場や浅場の造成は海洋生態系による炭素吸収・貯留量の増加という気候変動対策であるとともに、生物の生息環境創出という生物多様性の増加に貢献するものです。このような取り組みを実施するためには、生物多様性の「今」を知ることが不可欠です。

当社は豊富な経験と実績に基づいた調査計画立案、確実な現地調査、形態と環境DNAを用いた生物相の解明を通じて、生物多様性の現状を精度よく把握し、ネイチャーポジティブ推進に資する情報を提供します。

提供  
する  
サー  
ビス

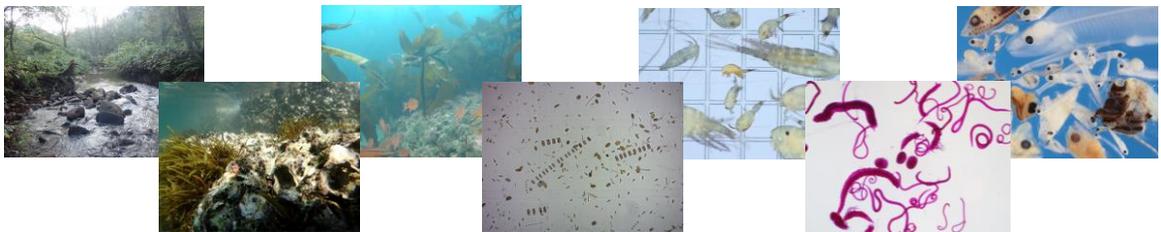
## ◆ 調査計画立案および確実な現地調査を実施します

生物多様性の現状を把握するためには、種類数、現存量、貴重種・外来種の生息状況などの基本的な生物情報に加え、胃内容物や安定同位体比の解析から得られる生態系の構造や、生理・生態情報から得られる生態系の機能を知る必要があります。当社では豊富な調査実績から生物多様性の現状を把握するために必要な計画を立案し、確実な現地調査を実施します。

## ◆ 生物多様性の現状を把握します

ネイチャーポジティブに取り組むためには、当該水域における生息種とその個体数、現存量等の情報が不可欠です。当社は、日本全国の陸水域から沿岸域はもちろん、外洋域に至るまで、あらゆる水域に生息する生物を形態から同定することが可能です。さらに、環境DNAによる分析を組み合わせることで、当該水域の生物情報を網羅的に精度よく把握します。また、必要に応じて生物量を炭素量に換算し、生態系の物質循環を把握するために必要な情報の提供が可能です。

【当社は陸水域～沿岸域～外洋域に生育・生息する様々な生物を対象としています】



### 関連発表・論文

金子健司・前畑友香・矢持進. 2007. 高水温期の和歌川河口干潟における貝類の生産とその窒素循環に果たす役割. 水環境学会誌; 30: 513-519.

Hiraoka, R., H. Teishima, T. Takabe, T. Suzuki and Y. Tanaka : Detection of invasive shrimp *Palaemon sinensis* (Sollaud, 1911) using environmental DNA. *Crustacean Research*, 50, 9-15.



株式会社 日本海洋生物研究所

MARINE BIOLOGICAL RESEARCH INSTITUTE OF JAPAN Co., Ltd.

〒142-0042 東京都品川区豊町4丁目3番16号  
TEL 03-3787-2471 E-mail mbrij@mbrij.co.jp